

そうか、そうか、そんなやつなんだな。

つまりきみは

悪く

思わ

ない

で

くれ
たまえ。

罰

たまえ。

微妙な

嬉しい

欲望

との

入り交じった

気持ち

絶頂

の

非の打ちどころがないという悪徳



又吉 直樹

コラム

直樹さん

展翅

蝴蝶

「現代の国語」
教材ガイド

No.4

恐ろしい

不安

こな

閑

ごな

もう、けつこう。

壊れた羽

償い

1年 小説教材

少年の日の思い出

ヘルマン・ヘッセ 「訳」高橋 健二

大きな
満足感

残念ながら、
自分でその思い出を
けがしてしまった。

喜びと
激しい

熱情

ぼくは突然、
自分は盗みをした、
下劣なやつだ
ということを悟った。

ことばの子

模範少年



収集 けつこうだよ。

クジヤクヤママユ

三省堂中学国語教育

1年小説

152 ページ

POINTS OF FOCUS

少年の日の思い出

ヘルマン＝ヘッセ 「訳」 高橋 健二

教材の特徴 / 学習指導のポイント

★『熱情』『過ち』『心の闇』

—少年時代の「思い出」へのまなざし

- 行動を突き動かす熱情、美への執着と誘惑によって引き起こされた事件。
- 「償うことのできないもの」「相手に受け入れられない誠意」……
行き場のない思いに押し潰される登場人物の心の真実に迫る。

★『視点』『描写』『構造』

—「語り」の粋が凝縮された名作

- 小説における多彩な表現の仕掛け・しくみについて、その効果を体感しつつ、想像と思考をめぐらせて読みを深める。

Design 宮内 佑

本教材は、中学生になって教室で出会う、最初の本格的な小説である。1学期に学習した「空中ブランコ乗りのキキ」で読み味わった主人公の葛藤は、より複雑に、より精緻に、一人称の視点をとおして描かれる。

読解方略「読み方を学ぼう」では、「語り手」を扱う。ここでは、小説における「語り」の基本を押さえること、および、作品の構造（片額縁構造）を把握し、その効果について考え

ることをねらいとする。

「熱情」「美への誘惑」「受け入れられない謝罪（拒絶体験）」「償えないもの」等のモチーフを捉えながら読み深めていくことによって、文学の意義と、文学がもつ力についての理解へとつなげることができる。

作品の内容や表現上の効果について、多様な解釈を共有し、それぞれの読みや考えを広げる学びを実現したい。

「少年の日の思い出」を読む



又吉 直樹

やつてはいけないことをやってしまって後悔する、自分が完全ではない、だめな人間であること自覚する、取り返しのつかないことが世の中にはあるということを突きつけられる……程度の差はある、誰もが経験する話ですよね。中学校に入る前に経験している生徒も少なくないはずです。それでも小説には、小説を読むことでしか得ることのできないものがあると思っています。

ものを盗んで壊した側と、盗まれて壊された側。現実の世界であれば間違なく被害者であるはずのエーミールが、話のなかではずいぶん悪いように書かれていますね。しかし、エーミールの立場からしたら、「ぼく」の語りのように哀愁をもつて語られたくはないはずです。勝手に自分の部屋に入られて、自分の大切なものをめちゃくちゃにされたわけですから。

小説では、誰によって語られたのかが問

題になります。語られる視点によつて世界が一変する。この、見えている世界が視点によつて一変するということをわかつておきくことは、ぼくたちが現実の社会を生きていくうえでも大事なことだと思うんです。小説を読むことの意味はこういうところにあるのではないか。

しかし、そもそも、なぜこんなにエーミールが悪く語られるのか。人はみな、「自分が善なるものである」と信じたい。この作品の「ぼく」も「エーミールが悪い」と思うことで、そう信じようとしている。「もしエーミールがいい人だったら、自分は盗んだりしていなかつたはずだ」と。それがこの語りに出てきている。でも、「ぼく」はそれを信じ切れない。複雑な心理が描かれていますよね。

*

この小説は、少年時代の回想の語りのまま終わっています。『スタンダード・バイ・ミー』^{※注}とはつくりが違いますね。例えば、「客はそこまで話すと、そのときのことを思い浮かべている様子で窓の外の闇をずっと眺めていた」というように、最初の「私」と「客」の場面に戻してもよかつたのかもしれない。でも、ヘッセはそうはしていない。「ぼく」が自分で自分の大切にしていたチョウを漬して終わる。そこに生まれる余韻こそが、

この小説において最も重要な部分だと考えていたように思えます。

「ぼく」にとつて、このできごとは消化されていませんよね。大人になつた「ぼく」（客）にとつても消化されてない。消化されてない状態でいいんです。もしこれが「人間」というものにはそういうところもあるからね」とか「子どもの頃のことだからいろいろあつたんだよ」と折り合いをつけて語られたらどうでしよう？ いまだに直視できない、いつまでも消化できない塊みたいなものが残っている。人生の中で、ずっと気になかつていていることだからこそ、これだけ語るのでしよう。このことをより際立たせるために「戻らない」のかもしれません。

PROFILE

またよし・なおき

お笑い芸人。作家。1980年大阪府生まれ。よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属のコンビ「ビース」として活動中。『キングオブコント2010』準優勝。2015年に、『火花』で、第153回芥川龍之介賞を受賞。舞台の脚本も手がける。主な著書に、『劇場』(小説)、『第2回書類補佐』『東京百景』(以上、エッセイ)、共著に『カキフライが無いなら来なかった』『まさかジープで来ると』(以上、自由律俳句集)、『新・四字熟語』『芸人と俳人』などがある。

※注 スティーヴン・キングの小説をもとにつくられたアメリカ映画(1986年、ロブ・ライナー監督、出演はキーファー・ザザーランド、ジョン・キューザック他)。小説、映画とも「現在(大人)→過去(少年時代)→現在(大人)」という典型的な「額縁構造」をとる。

なぜ「私」にマイクが『戻つてこなかつた』のか——「正しい」答えはわからないのだけれども、クラスのみんなでいろいろ考へることはいいことですよね。誰かがおもしろい読み方をして、それで作品の読みの可能性が広がっていくこともあると思います。

あるいは『戻つてきた』として、この後の話を書いてみるというのもいいですね。もし自分がこのような告白を受けたらどう対処するか、自分だったらこの人（「客」）にどうフォローするかを考えることもおもしろい。シーンの映像化を考えしていくのもいいですよね。

*

冒頭の場面では、夕方、「客」と「私」がいるところに子どもが登場して、それがきっかけになつて、二人の少年時代と接続され、チヨウ集めの話が導き出される。日が暮れて薄暗くなつてランプをつけると、その瞬間に窓の外が闇に沈んで、一人だけの空間がつくられる……。そうやつてだんだん「語り」の舞台が整えられていくんですね。よく描けていますよね。

冒頭の場面では、夕方、「客」と「私」がいるところに子どもが登場して、それがきっかけになつて、二人の少年時代と接続され、チヨウ集めの話が導き出される。日が暮れて薄暗くなつてランプをつけると、その瞬間に窓の外が闇に沈んで、一人だけの空間がつくられる……。そうやつてだんだん「語り」の舞台が整えられていくんですね。よく描けていますよね。

その思いの強さがそこに表れているんですね。例えば、自分はそのものにとくに興味もなくして、したがつてそれがその持ち主にとつて特別な価値があることもわからず、ティッシュ一枚取るよう人のものを盗ってしまうのとはまったく違う。盗みを正当化することはできないけれども、「なんなんこいつ、人のもの盗つて最低やな」で終わ

る話ではないんです。盗みがいけないことでも、そのチヨウがエーミールにとつてどれだけ大事なものであるかも、「ぼく」には痛いほどわかっている。そのことを描写から読みとることができます。

このように、描写は小説にとつてとても大事なのですが、それは、細かく書けばいいということではないんです。ディテー



ルを書けば書くほど、伝えたいものから遠ざかるということがあります。俳句などはそれがよくわかりますが、小説にも当てはまります。細部の描写を「はしょるのか」「書きつめて書くのか」——このことを作家は自覚しています。

*

ことばってすごいですよね。ほんとうによくできています。でも、世界のすべてをことばで表すことはできない。自分が体験したことを「そのまま」小説に書いたとしても、その小説から読者が想像する世界は、書き手から見た世界と絶対に同じにはなりません。

「小説はウソを並べて書いている」とよく言われます。でも、それは間違っている。現実に起こったことをそのまま書いたら現実には対抗できないんです。考えたこと、感動したこと、おもしろさ、その場にあった熱量が伝わらなかつたら、読んでいる人にとってはニセモノを手渡されているようなものです。それこそが「ウソ」になる。だから、作家は現実の強さに負けないように、ことばを一つ一つ慎重に選んで、ていねいに紡いでいかなくてはならない。

ヘツセが実際に類似の体験をしたのか、あるいは、見聞きしたことなのか、それはわかりません。実はそれこそ、どっちでもいいことなんです。それがどうであれ、ヘツセは小説家として、いちばん伝えたいことを小説のことばとして再構成して読み手に示している。

大事なのは、伝えるべきこと、見たことや考えたこと、その場の感動や熱量を、身振りも表情も何も使わずに、いかに活字で伝えるかということです。だからこそ、文学はおもしろくなるし、また、必要とされるのだと思います。

*
「少年の日の思い出」は心理描写が複雑な作品です。こんな複雑な心理を中学一

年生が読めるのかと思うかもしれませんけれど、きっと読めるんです。難しいかもしれないけれど、読んで、ぜひ、いろいろなことを考えてみてほしい。ぼくは、中学生時代、国語のテストで考えたことを細かく書き過ぎて、採点されて戻ってくるときには、「考え方です」と書かれて「三角」ばかりでしたが(笑)。それで先生は、「又吉くん、なんでそう思つたん?」と、毎回聞いてくれました。

生徒のみなさんは、ことばそのものに興味をもつてほしいと思っています。

それには、自分で創作してみるとあります。まずは自分で書いてみるといでよ。自分で実際に書いてみると、ことばをより意識することができるようになります。まずは自分で書いてみる。一度でもその経験をもつと、読むときにも、書き出しから興味をもつて読むようになります。それまでは小説の真ん中くらいにきてようやくおもしろくなってきていたのが、もう、最初の一言から気になつてくる。会話一つにしても、それまでとは違つた見方をするようになりますから。(談)

*二〇一七年八月一日、吉本興業東京本部にて取材

(撮影・塩澤秀樹／構成・編集部)

ひとめで
みえる

授業展開 アイデア



発問 《導入》

これまでに学習した物語や小説を分類してみましょう。

ポイント

- 既習の文学教材を振り返り、本単元の学習の動機づけを行うことを目的とする。
- 分類が終わった後、これから学習する「少年の日の思い出」がマトリックスのどこに位置づくかを念頭に（推測しながら）読みに入るという学習の流れも想定できる。
- 黒板や電子黒板で提示したマトリックスを協働的に作成しながら、図解の利点を生かして、いろいろな見方・感じ方を出し合い、共有する場をつくりたい。
- 分類ツールとしてマトリックスを用いる。

↓図解例1 本誌10ページ

発問

グループごとに「少年の日の思い出」の「人物相関図」をつくりましょう。

ポイント

- 範読（あるいは朗読CD）を聞かせる前に課題提示し、読みの構えをつくる。
- 「空中ブランコ乗りのキキ」で学んだ「人物相関図」の知識・技能を活用する。
- 人物相関図を協働作成する活動は、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」という学習過程※注と関連するものである。読解（思考）ツール、表現（説明）ツール、フレードバック（対話）ツール、共有ツールなどとしての、学習場面に応じた機



学習目標 学習指導要領対応項目
○場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉える。
○作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。

評価標準
●国語への関心・意欲・態度
○登場人物の心情の変化を捉えようしたり、構成上の効果について自分の考えをもどうとしたりしている。

●読む能力
○場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉えている。
○作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。
●言語についての知識・理解・技能
○事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。

ミニ情報

蝶と蛾

高橋健二氏が作品中で「チョウ」と訳しているドイツ語は“Schmetterling”および“Falter”です。どちらもチョウとガをまとめて指すことばです。このような概念をもつ語彙は日本語にはありません（「鱗翅目」などの専門用語を除く）。チョウとガを区別せずに一括りに扱う單語が存在し、それが日常的に使われるということは、ドイツ語圏の人々が両者の違いをあまり気にしていないことなのかもしれません。少年たちのコレクションにおいてもチョウとガは同等に扱われていたようです。ちなみに、ドイツ文學者で昆虫研究家である岡田朝雄氏による新訳（9ページ「関連図書・資料」参照）では、文

能を効果的・意識的に活用させたい。

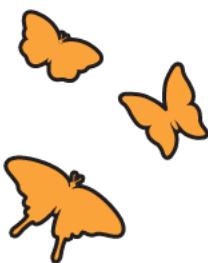
ここで作成した人物相関図のコピーを用意して、その後の学習で新たに得た解釈や情報をもとに更新していくようにすると、単元末のバージョンアップ版と、はじめのものとを比べる学習が可能となる。

※注 中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年6月）「読むこと」の指導事項による

↓図解例2 本誌11ページ

↓読み方を学ぼう 活用ガイド（学習指導書）

↓朗読CD（26分34秒）



ポイント

発問

チヨウをこなごなに押し潰すという「ぼく」の行動について、その原因にあたるものを考えてみましょう。

- 「エーミールの冷酷な応対」「エーミールの悪徳性」「ぼく」のネガティブな性格など、当該の行動と深いつながりをもつものから、「母に謝りに行くように諭されたこと」「エーミールと知り合ったこと」などという遠因・間接的原因にあたるものまで、さまざまな事象を取りあげることが可能である。学習のねらいは、できごとやそのタイミング、人の性格などが関連し合い積み重なって物語の世界が動いていること、登場人物たちがその影響下で生きていることへの認識を深めることにある。
- 「もし／が／だ／たら、結果はどうなつていたか（例：もしエーミールが優しく許してくれていたら、どういう結末になつていたか）」というように、物語の展開の別の可能性をシミュレーションすることも、行動や心情を読み深めるうえでも、小説の仕掛けやしくみを学ぶうえでも有効である。

「蝶」と「蛾」、「butterfly」と「moth」などのように、両者を区別してそれぞれを意味する単語を用いる人々にとつては、不思議な思いがしますが、スペイン語、ロシア語など多くの言語が、ドイツ語のようにチヨウとガをまとめて指す語彙をもっています。フランス語の「papillon」（パピヨン）も、チヨウとガの両方を含んでいます。

日本の文化の中で暮らしている私たちには、「チヨウは美しく、装飾などにも用いられる親しみがあるもの」、「ガは醜く、厭われるもの」という感覚・観念が強い傾向にあります。作品冒頭の場面で「私」が自慢げに客に見せるワモンキシタバがガであること、少年たちがガを美しくすばらしい「宝」として捉え、自慢や嫉妬を生むものとして描かれていることに、驚きや違和感を抱く人も多いと思われます。

一方で、古代のギリシアや中国の人々は、むしろチヨウに対して、亡靈・死者の靈魂として不吉なイメージをもつっていたとされます（日本でも古代においては、チヨウが死者の魂として忌避されることもあつたようです）。

中国では「蛾眉」（「蛾の触角のように、くつきりとしたよい形の眉」「美しい女性」の意）ということばがあるよう、ガは「美しい」とつながるものでもありました。ことばの概念やイメージ、用いられ方に表れる人々の見方や考え方、感じ方の違いや多様性に着目しながら、ことばと文化の深いかかりへの認識を育てることは、外国文学を学ぶ大きな価値であると考えられます。

発問

「チョウを一つ一つ取り出し、指でこなごなに押し潰して」いるときの、「ぼく」の「心のつぶやき」を推理してみましょう。



ポイント

- この場面の「ぼく」の心情は複雑であり、人生経験や読解の深度による解釈の幅や揺れが生ずるところでもあるので、当該部分の行動・心情の解釈およびその言語化は難度の高い学習といえる。ここではその手がかり（ステップ）として、生徒に身近な「つぶやき（せりふ）」という具体的なことばを考える課題を設けた。

「書きやすい」だけに、いろいろなレベルの解答が出ることが想定される。その「つぶやき」を考えた根拠を説明し合ったり、他の人の意見を聞き合ったりする活動をしきみ、説得力の弱い「つぶやき」については自主修正する機会を設ける。そのうえで、一つの解に集約するのではなく、多様な見方・考え方・感じ方があること、および、文学作品の特性とその価値を共有したい。

発問

作品は「ぼく」の語りで終わっています。この作品の終わり方や全体の構成について、その特徴や効果を考えましょう。

ポイント

- 最後で再び現在の場面に戻っていれば、「現在→回想（過去）→現在」という「額縁構造」の典型的な作品となることを押さえる。典型的な額縁構造をとる小説やドラマの例を出すことも考えたい。
- 「もし、この作品が額縁構造であつたら、どのようなものになつていたか」を想定して、両者を比較して考える。そのときに、話を打ち明けられた「私」と「客」（大人になつた「ぼく」との会話を想像・創造してみるのは有効な手だてとなる。会話の他に、二人の行動や部屋の内外などの描写を加えることも考えられる。
- グループでの話し合いや、発表の際には、フリップやミニホワイトボード等を活用

ランプとろうそく

ミニ情報

ヘッセの少年時代の一八八〇～九〇年頃の家庭の照明は、ランプやろうそくに頼るものでした（二〇世紀初頭においても、ドイツの一般家庭への電力普及率は一〇%未満であったとされます）。「少年の日の思い出」という小説の世界を作者ヘッセの実人生と重ねる必要はありませんが、ランプやろうそくの灯りは、この作品の登場人物たちにとつても日常生活の暮らしに欠かせないものであったと考えよいと思われます。
炎に鈍く照り輝くチョウの羽の鱗粉や触角、陰影深く浮かび上がる顔、部屋の壁や天井に揺らめく物影、灯りを包み込む闇の深さ——。登場人物たちがランプやろうそくによつて見て、感じていたものは、現代のあからさまで搖らぎのない照明のもとでの私たちの体験や感覚とは異質なものであつたに違ひありません。
ランプにかさを載せて客の語りがはじまる場面、夕闇深まる中庭に「ぼく」が一人たたずむ場面、ろうそくを灯してエーミールが「ぼく」にクジヤクヤマユの姿を見せる場面、闇の中でチョウを押し潰していく場面……炎が生みだす表情豊かな光と静かに深く込み込む闇が織りなす世界の趣を読み味わうこと、この小説の魅力の一つです。



5・6時

発問

次の場面を短い劇にしてみましょう。

A 「ぼく」と「エーミール」の会話シーン
「彼は出てきて、……ただぼくを眺めて、軽蔑していた。」

*教科書P160・L11～P161・L13

B 「ぼく」がチョウをこなごなに押し潰すラストシーン
「その前にぼくは、そつと食堂に行つて、……指でこなごなに押し潰してしまった。」

*教科書P161・L17～P161・L19

ポイント

- 三～四人規模のグループで行う。教室で簡単に短時間（30秒～1分程度）実演できることを条件にする（ナレーションを入れる、BGMを使用するなどは適宜判断）。役がつかない生徒も、せりふづくりや演出に加わり、協働の場として機能するように留意する。

● 評価については、演技力に関わる部分は対象としないこと、のびのびとした創造的な表現を期待することをあらかじめ生徒に伝えておく。評価は、「振り返り」の場を十分に設けて実施する。「ドラマ・演技についての振り返り」、「ドラマ化と作品の読み深まりについての振り返り」の両面について、交流会やコンテストなどによるグループ間の相互評価と、自分の考えを文章にまとめる個人活動を組み合わせて行いたい。

↓教育トレンド用語「ドラマ教育」 本誌12ページ

「達人のことば
宮大工 西岡常一
彫刻家 外尾悦郎」

次号予告 2年談話



したい。思考プロセスを可視化しオープンにすることで、その場の全員にとっての即時的な情報共有が促進されるため、特にグループワークにおいては有効なツールとなる。

関連図書・資料

●『少年の日の思い出』

ヘルマン・ヘッセ著 岡田朝雄訳
草思社 2016年

*『少年の日の思い出』の新訳を含む四作品を集めた短編集。訳者あとがきには「少年の日の思い出」をめぐる高橋健二氏とのエピソードも掲載。

●『物語論 基礎と応用』

橋本陽介著
講談社 2017年

*物語の「構造」に関する入門的な一冊。小説、映画、ドラマ、漫画など、幅広い題材を分析している。

●『こうすれば考える力がつく！』

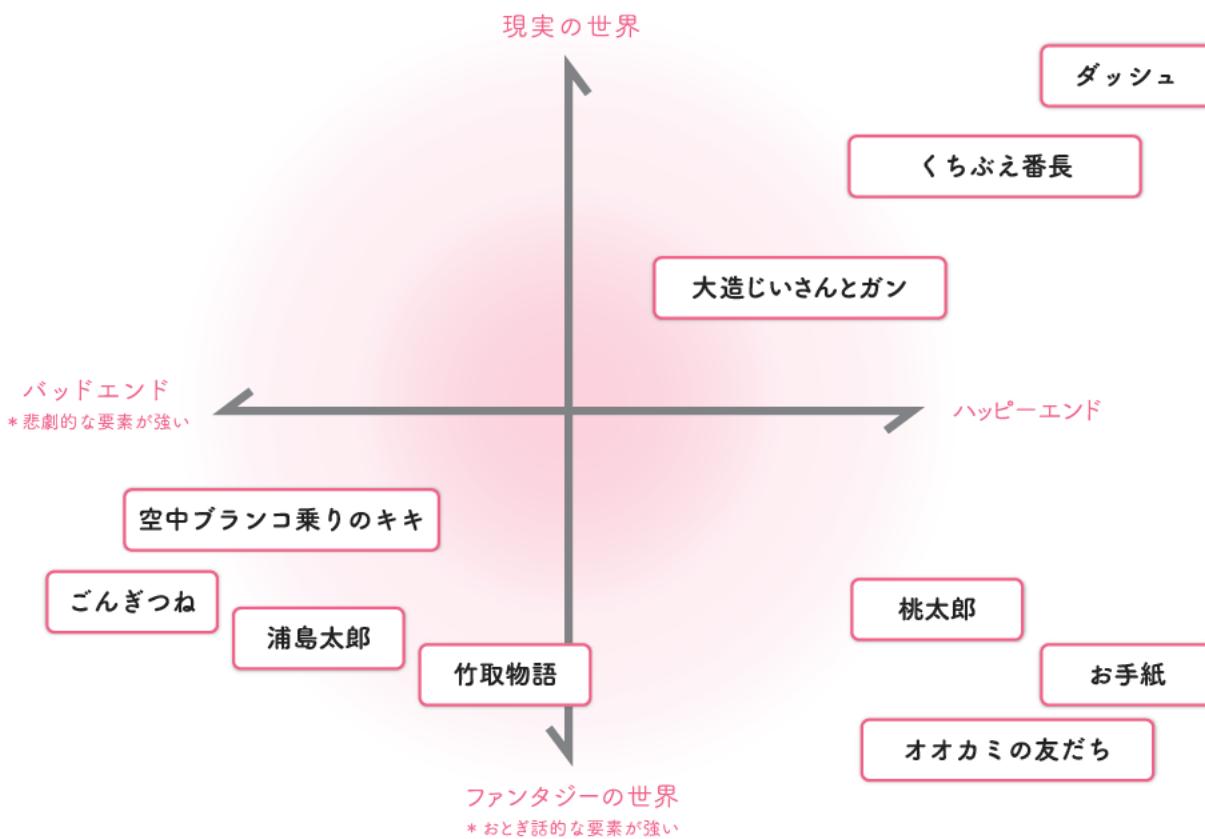
中学校 思考ツール
田村学・黒上晴夫著
滋賀大学教育学部附属中学校編
小学館 2014年

*中学校での思考力を高める授業の展開と「思考ツール」の活用について、授業実践をもとに解説。生徒が記入した「思考ツール」の実物を多数掲載している。

解例1

課題

今までに学習した(みんなが知っている)
物語・小説を分類してみよう。



ポイント

上図の例において、分類の基準・観点は、「度合い・程度」として、段階的なものとして設定されている。基準・観点によっては、「段階(幅)」が生じないものもある(例:「日本文学か海外文学か」)。

比較的明確に位置づけやすい作品からはじめ、次第に意見やとらえ方が分かれる作品を提示していく。

意見が分かれるときは特に、その根拠を発表し合いながら行う。作品によっては多様な受け止め方が可能なものがあること(マトリックス上の位置が明確に定まらないものがあること)を確かめ、共有しておきたい。

「文学」あるいは「物語・小説」を広くとらえて、ドラマや映画作品を加えて扱うこととも考えられる。

分類の基準・観点としては、「その他」「現代／古代」という時間軸^{注1}、「国内／国外」「実在の土地／架空の土地」などの空間軸^{注2}、中心人物が「男／女」「子ども／大人」「人間／人間以外」という人物属性の軸などが想定できる。

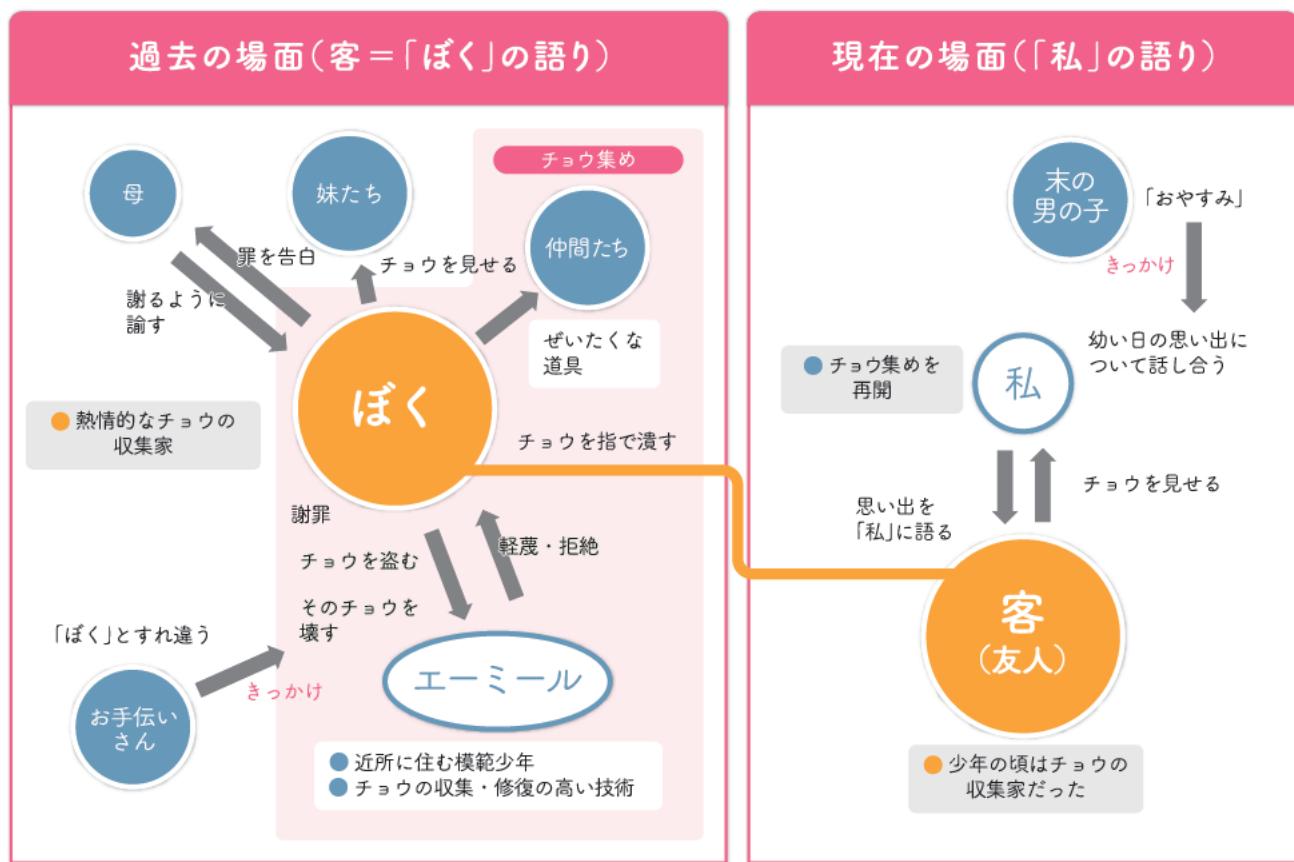
授業展開アイデアにおけるねらいとは離れるが、分類の観点として「一人称／三人称」という語りの特性や、「娛樂性／思想性」などの評価尺度を設定すれば、より本格的な文学作品の分析ツールとして活用できる。

*注1.. 作品内における舞台の時代設定を問う場合と、作品の成立時代を問う場合とが想定できる。
 *注2.. 「国内／国外」は舞台設定の他、「日本文学／海外文学」という作品・作者の属性として設定することも可能。

解例2

課題

「少年の日の思い出」の人物相関図を作ろう。



ポイント

▼ 本文中の行空きに着目して、この小説が「現在の場面」と「過去の場面」とに分かれていることを確認する。

▼ 「現在の場面」で、「客」「彼」「友人」と呼ばれている人物が、「過去の場面」の「ぼく」であることに注意する。
 ↓教科書164ページ「読み方を学ぼう5語り手」

▼ 人物相関図は、「現在の場面」と「過去の場面」に分けた二枚の図を書く方法と、作品の構造(額縁構造)に合わせて、「入れ子」の形で一枚の図として表す方法とが考えられる。

▼ それぞれの場面における中心人物を大きく書く。

▼ 他の登場人物を書き出し、中心人物との関係を、位置や結ぶ線などと合わせて、適宜ことばで表す。

・人物の性質や特徴、行動などを押さえながら行う。それらを言語化して図に書き入れること、あるいは、(図には書かずに)口頭で補足説明することを課題化することで、作品の描写のディテールや仕掛けなどを読解・解釈する活動とつなげる。
 ・言語化のプロセスが、状況やできごと、行動などの具体を抽象化する思考のトレーニングとなることも意識して行いたい。
 ・図の中にどの程度詳しく書くかは、目的に応じて調整する。

▼ 作成した図をもとに、自分のグループの図解の工夫点や他のグループの図解についての感想・疑問点などを交流させたい。

・複数の図解を比較し、共通点と相違点に着目させる。

ドラマ教育

演劇的手法で小説を読み深める

「ドラマ教育」は、(a)（演劇コンクールなどで上演を目的とした演劇を対象とした「演劇を学ぶ教育」と、(b)教科の学習内容を「演劇的手法」で学ぶ教育に大別できます。英語圏では、前者を「theater」、後者を「drama」として区別することがあります。

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点で注目されているドラマ教育の多くは(b)の系統に属します。「授業展開アイデア」の「5・6時」（本誌9ページ）で取りあげた活動も、(b)に位置づくもので、国語の授業として、小説教材「少年の日の思い出」を読み深める学習です。教科の授業で扱うドラマ（アクティビティ）は、特別な衣装や大掛かりな道具を使いません。多くは普通教室で行い、演じる時間も短く、数十秒から数分が一般的です。

*

①について
小説のことばは、読み手の想像力が自然に無理なく駆動するように巧みにコントロール

「授業展開アイデア」では、ドラマ技法として「ロールプレイング」を扱っています。物語の場面を教室に仮構し、その空間に自分の身体を置いて、登場人物としてふるまう（追体験する）ことで、作品の世界を生きる人々の状況や心理に迫り、解釈や考えの形成につなげる学習活動が想定されています。

活動のポイントとしては、

- ①本文に〈書かれていること〉と〈書かれていないこと〉の両方に着目する。
- ②解釈にそぐわない（むしろ真逆の）せりふ・動作やオーバーな表現をあえて試してみる。
- ③即興（アドリブ）をOKとする。

学習者は、場面を再現する過程で、こうした〈書かれていらないこと〉を、自分の動作として決めていくことになります。それは、本文に〈書かれていること〉を手がかりにして、状況・心理を想像し、解釈を更新しながら、より説得力のある身体のあり方を創造していく活動です。小説のドラマ化における「再現」が、「想像」と「創造」の営みであることを生徒と共有して臨むことが大切です。

されています。その場の様子が手に取るよう見える感覚や、その場に居合わせているかのような臨場感を生み出す描写であっても（むしろ、そうであるからこそ）、あえて〈書かれていないこと〉が存在します。

例えば、「だが、その前にぼくは、そつと食堂

に行つて、大きなとび色の厚紙の箱を取つてき、それを寝台の上に載せ、闇の中で開いた。

そしてチョウを一つ一つ取り出し、指でこなごなに押し潰してしまった。」という描写にもディテールの省略がみられます。

どのように持ち（片手で／両手で）、どのように足取りで（あらあらしく／静かに）、箱を運んだのか？ どこでどのような姿勢で（ベッドに腰掛けて／ベッドの上にあぐらをかいて／立つたままで）、どのように箱を開いてどのように取り出したのか？ どの指をどのように動かして、どこを見ながら潰したのか？ ……。

学習者は、場面を再現する過程で、こうした〈書かれていらないこと〉を、自分の動作として決めていくことになります。それは、本文に〈書かれていること〉を手がかりにして、状況・心理を想像し、解釈を更新しながら、より説得力のある身体のあり方を創造していく活動です。小説のドラマ化における「再現」が、「想像」と「創造」の営みであることを生徒と共有して臨むことが大切です。

②について……

本文の叙述に対しても適切でないと思われる動作——例えば、「ラストシーンにおいて、「ハンマーで叩き潰す」「鼻歌を交えて潰す」「箱ごと捨てる」など——をあえて演じ比べてみます。演技をわかりやすい形で比べることは、演じる側にとつても見る側にとつても、「なぜこの動作がふさわしいのか／ふさわしくないのか」を考えながら解釈を深めるための有効な手立てとなります。

「ぼく」がエーミールに謝罪する場面であれば、せりふについても「早口で」「金切り声で」「どなるように」「泣きながら」などのようにバリエーションを設けて演じてみます。せりふが「棒読み」から脱しやすいのに比べて、せりふを話したり聞いたりするときの身体は「棒立ち」のままになります。例え、「直立不動」の姿勢と対比的に「髪の毛をかきむしる」「首を回したり左右に曲げたりする」「その場を歩き回る」などの動作をつけてみるとも考えられます。

③について……

ここでは「台本をつくり、それを演じる」スタイルを想定していますが、演じているときに台本がないことを口にしたり、動作にしたりすることも認めることにします。これは、台本を正確に覚えることに時間がかかり過ぎ

たり、台本に忠実にあろうとして表現が硬くなったり平板になつたりする傾向を緩和するためです。

①～③の他、「チームで協働して行う」「楽しみながら行う」「振り返りの時間を十分に確保する」なども重要なポイントです。

頭で理解したつもりでいることを、「ドラマ化（身体化）してみると、その理解の深さ・浅さが自覚できます。また、他の人の理解や解釈が「見える化」されて、互いの感性や思考を共有しやすくなります。これらは、より深く精緻な解釈につながります。このように、ドラマ教育は、頭と身体をアクティベートさせ、自分ごととして、対話的に、創造的に学習を深めていく可能性をもっています。

ホットシートに座る人物は、「母」「お手伝いさん」「妹」「チヨウ集めの仲間たち」などの脇役・端役の他、「エーミールの父親」などの作品に登場しない人物を設定することもできます。一度に複数の人物がホットシートに座ることもあります。

この活動は台本がなく、その場で即興的に進むところから、「即興」を意味する「インプロビゼーション」もしくは「インプロ」というジャンルに属します。インプロにも、「静止画／立体絵画」「スローモーション実況中継」など、物語・小説の学習に効果のある技法がたくさんあります。

小説の読み深めに有効な演劇的手法の一つに「ホットシートティング」（「質問コーナー」／「記者会見」と呼ばれるものがあります。「少年の日の思い出」であれば、例え、「ぼく」役の生徒と、「ぼく」に質問する生徒（記者団役）を選びます。「ぼく」と質問者グループは向き合って座りますが、「ぼく」役が座る椅子（席）が「ホットシート」です。

「エーミールのどこが嫌いなのですか？」「非の打ちどころがないところです」「それは具体的にはどういうところでしょう？」
「例えは、

参考図書

●『学びを変えるドラマの手法』 渡部淳+

獲得型教育研究会編 句報社 2010年

●『インプロゲーム』 紹川友梨著 晩成書房 2002年

現代の 書写



二〇一七年八月八日（火）、九日（水）の二日間に渡り、静岡県浜松市において全日本書写道教育研究会第五十八回全国大会（以下、全書研）が開催されました。

新学習指導要領の改訂ポイント

全書研の全体会では、二〇一七年三月の中学校学習指導要領告示を受けて、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の加藤泰弘先生より、書写の新学習指導要領についての講話がありました。前回平成二〇年の改訂に続き、「文化的な視点」が強調されたことを踏まえて、「手書きは文化である。毛筆で文字を書くこと自体が文化である。」という旨の見解が示されました。

そのうえで、今回の改訂のポイントとして次の二点があげられました。一点めは、小学校低学年の指導事項に「点画の書き方（点画の始筆から送筆、さらに終筆〈とめ、はね、はらい〉までの筆記具の運び方）」を明記したこと、二点めは、中学校第三学年の指導事項

に「身の回りの多様な表現」「文字文化の豊かさ」を示したことです。

二〇一七年六月二十一日公表の「中学校学習指導要領解説国語編」によると、「多様な表現」とは、「身の回りの生活の中にある言葉に関する多様な表現のこと」であり、「文字の表現について言えば、手書き文字をはじめ、活字やイラスト文字、デザイン文字などの社会生活で使用されている多様な書体や字形の文字全般のこと」とされています。

また、「文字文化」とは、「文字の成り立ちや歴史的背景といった文字そのものの文化」と、「社会や文化における文字の役割や意義、表現と効果、用具・用材と書き方との関係といつた文字を書くことについての文化」の両面があると示されています。

もありました。

このように導入を工夫することで、行書学習の意義や特徴を、それぞれの学習者が実感をもって理解することができます。さらには、導入の段階で実際に自分の手を動かしながら考えることで、その後の行書学習にも効果的につながることが期待されます。

また、この実践報告からは、「行書を学習することによって何ができるようになるか」を学習者自身に認識させることの重要性を改めて感じます（例えば、「授業中にノートを素早く書けるようになる」「電話の伝言内容を読みやすくメモに残すことができるようになる」など）。

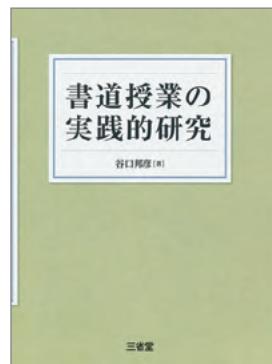
今自分が学習していることは、日常生活・社会生活のどのような場面で活用できるのか、学習者が自分で考えて気づけるような工夫が、書写の授業に求められています。

書学習の導入として、指定された文章（二行・四〇字程度）を「楷書」で制限時間内に書いたり、口頭で読みあげられた情報をそのまま素早く書き留めたりすることで、楷書は速く書きにくく、速く書こうとすると読みにくくなりました。また、行書の特徴（点画の連続や省略）を指導者が説明する前に、まず学習者が自分なりに「（速く書いても読みにくならない）行書とはどのような書体か」を予想して、実際に毛筆で「行書」を書いてみる活動などもありました。

全書研の分科会の一つとして、湖西市立岡崎中学校・太刀岡優美先生より「行書の意義・良さ・特徴を考える」（対象：第一学年）と題した実践報告が行われました。そこでは、行

書道授業の実践的研究

学習者主体の書道授業をどのようにして実現するか。「お手本主義」を脱却して「思考」や「認知」的活動を取り入れた学習指導のあり方を、著者の中学・高校・大学における豊富な実践研究をふまえて提唱する。



谷口邦彦 著
2015年 A5判 176ページ
1,900円+税
ISBN 978-4-385-36346-2



松本仁志 著
2009年 A5判 120ページ
1,400円+税
ISBN 978-4-385-36147-9

「書くこと」の学びを支える 国語科書写の展開

国語科の中で、「書くこと」の領域の学習に密接に関わりながらも指導の指向性がなかなか定まらない書写指導。「書くこと」の学びを支える」書写指導について、その考え方と実践のあり方を提案する。

デジタル教科書のご紹介



CoNETS 種
デジタル教科書

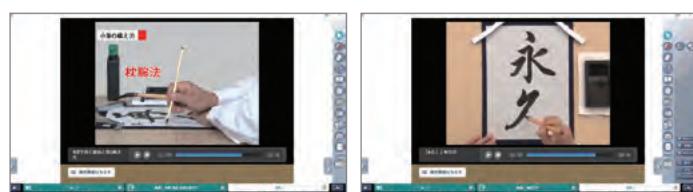
自在な紙面表示

拡大、書き込みが自在にできます。
作業状態はスナップショットで保存できます。



示範動画・解説動画

毛筆教材（「永久」など）の示範動画や、毛筆の基礎基本（姿勢・執筆、基本点画など）の解説動画を60点以上再生できます。



『現代の書写』指導者用デジタルテキスト 校内フリーライセンス (Windows)

〈教科書利用期間一括ライセンス〉定価（本体20,000円+税）※平成28年度版教科書をご採用の期間中、ご利用いただけます。
〈年間ライセンス〉定価（本体6,000円+税）※一年間ご利用いただけます。次年度以降はライセンスを更新していただくと、引き続きご利用になります。

動作環境や導入にあたっての条件等はCoNETSのWebサイトにて最新の情報をご確認ください。
<http://www.conets.jp/>

世界文学大図鑑

豊かな読書への入り口となる一冊

紀元前3000年から現在まで、古今東西の文学およそ100編について、時代背景、作者紹介、作品からの名言など、多角的に取りあげる。オールカラーでわかりやすい図解や図版を豊富に用いてビジュアルに解説。「もっと知りたい読者のために」のコーナーでは、さらに200編を超える作品を紹介。中学生から大人まで、世界文学の広がりと多彩さを知ることができる。

ジェイムズ・キャントン ほか著 沼野充義 日本語版監修、越前敏弥訳
2017年 B5変型判 352ページ 4,200円+税
ISBN 978-4-385-16233-1



思考力を高める授業

作品を解釈するメカニズム

文学作品を通して論理的思考力をいかに養うか。〈根拠〉と〈理由〉の相違を意識し、それらに基づいた〈解釈〉を導く授業を提案する。〈読みの力〉を高めるメカニズムを解説した「理論編」と、授業のあり方を示した「実践編」の二部構成。

佐藤佐敏 著
2013年 A5判 160ページ 2,000円+税
ISBN 978-4-385-36077-5



異名・ニックネーム辞典

杉村喜光 編著
2017年
B6判 688ページ 2,600円+税
ISBN 978-4-385-13721-6



10代からのマネー図鑑

マーカス・ウイーグス 著
2017年
B5変型判 160ページ
2,200円+税
ISBN 978-4-385-16236-2



株式会社三省堂

「教科書・教材サイト」<http://tb.sanseido.co.jp>

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 03-3230-9411(編集)・9412(営業)

- | | | |
|---------|--------------------------------------|--------------|
| ● 大阪支社 | 〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地2-5-3 | 06-6341-2177 |
| ● 名古屋支社 | 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F | 052-953-9211 |
| ● 九州支社 | 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 | 092-531-1531 |
| ● 札幌営業所 | 〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F | 011-616-8722 |

※本誌は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しており、弊社の機関誌として配布しています。